

第2節 三刀屋熊谷2号墳出土の重圏文鏡について

三刀屋熊谷2号墳第1主体部からは重圏文鏡が出土している。内区に2重の圏線を持ち、外区に櫛歯文を施したもので、同様の鏡式としては全国で80例あまりが知られている。宮城県から宮崎県まで全国各地に分布するが、近畿地方や九州には意外に少ないことが注意される。弥生終末から古墳時代後期まで含まれる時期幅を持つが、その中心は前期後半と考えられる。

県内での出土例（第6表）では、安来市五反田1号墳があるほか、三刀屋町馬場遺跡で出土した鏡片も、この鏡式のものと思われる。馬場遺跡鏡は、遺物包含層中の出土のため時期は不明であるが、五反田1号墳は竪穴式石槨を持つ前期末頃の古墳と考えられるもので、直径25m程の円墳ではあるが、地域の有力者の墓と考えられる。その他のものとしては、東出雲町鳥越山遺跡での採集品が復元直径4cm程の小型鏡で、2重の圏線が巡り他の文様が見られないという点で、重圏文鏡としての要素を備えるものである。ところが、鳥越山遺跡鏡は、圏線が突線ではなく沈線で表現されるものである。鳥越山遺跡では、弥生末から古墳前期の土器と須恵器が採集されている。また、石見町の大峠山古墳群の箱式石棺から出土した鏡は櫛歯文鏡として紹介されているが、写真を見る限り重圏文鏡の可能性もある。大峠山古墳群には7基の古墳が知られているが、鏡の出土古墳は明確ではなく、時期は不明である。

小型和鏡については、鏡種よりも鏡径に重要な意味があったと考えられ、ランクの低さは別として、小さいながらもそれなりの権威のシンボルとして副葬されたとする説（註5）がある。三刀屋熊谷2号墳に近い時期の鏡を副葬する古墳について見ると、同町内に松本1号墳が、斐伊川を挟んだ木次町には斐伊中山2号墳が知られているほか、宍道町の上野1号墳や出雲市の山地古墳もほぼ同時期の古墳と考えられる。松本1号墳は粘土槨を中心主体とする全長50mの前方後方墳で、鏡径13cmの斜縁獣帯鏡を副葬していた。斐伊中山2号墳は尾根上の高所に立地するという点で、三刀屋熊谷2号墳に近い要素を持っている。斐伊中山2号墳は一辺約15mで、粘土槨を中心主体部とする。鏡径12.1cmの細線式鳥文鏡を副葬している。宍道町の上野1号墳は長径40mの楕円形墳で全長約7mの長大な粘土槨を持つもので、鏡径17.5cmの斜縁神獣鏡を副葬していた。山地古墳は長径24mの楕円形墳で、箱式石棺から鏡径12.6cmの二神二獣鏡、鏡径8cmの珠文鏡の2面が出土している。三刀屋熊谷2号墳を合わせた5古墳で、墳丘の規模と鏡径の関係は一致すると言えそうである。安来市の五反田1号墳は直径25mの円墳で、竪穴式石槨を中心主体に持つ古墳であるが、出土した鏡は直径5.4cmの重圏文鏡となっている。五反田1号墳の場合は、盗掘を受けており、他に墳丘や主体部にふさわしい鏡が存在した可能性は否定できない。

三刀屋熊谷2号墳は、小規模の古墳であったが、小さいとは言え権威の象徴としての鏡を保持しており、他の鏡を副葬しない古墳に対しては権威を誇示し得たものと考えられる。奈良時代には「熊谷軍団」が置かれる丘陵ではあるが、郡名を冠さない「軍団」は全国的にも珍しく、飯石郡における熊谷地区の存在の特殊性を示すものと思われる。その前代に、熊谷遺跡の丘陵にこうした勢力が存在し得たことが確認されたことを見ても、この地域の重要性や特殊性を更に際立たせるものと言え、地域の歴史を考える上で重要な資料を提供したと言える。

	遺 跡 名	市 町 村	鏡 種	直 径
1	五反田 1 号墳	安来市	重圈文鏡	5.4cm
2	造山 1 号墳		三角縁三神三獣獣帯鏡	24cm
3			方角規矩鏡	17.4cm
4			方角規矩四神鏡	19cm
5	造山 3 号墳		斜縁二神二獣鏡	15.4cm
6	大成古墳		三角縁唐草文帯二神二獣鏡	23.4cm
7	鷺ノ湯病院横穴		珠文鏡	7.7cm
8	小谷土壙墓		内行花文鏡	8.2cm
9	今若峠 1 号墳		内行花文鏡	面径不明
10	小馬木 2 号墳		珠文鏡	7cm
11	月坂放レ山 5 号墳		乳文鏡	7.9cm
12	古城山古墳	東出雲町	位至三公銘内行花文鏡	16.3cm
13	鳥越山遺跡		鏡種不明	4cm
14	寺床 1 号墳		斜縁二神二獣鏡	13cm
15	八日山 1 号墳	松江市	三角縁波文帯四神二重鏡	21.85cm
16	月迫番外 3 号墳		盤竜鏡	10.5cm
17	客山 1 号墳		九乳文鏡	9.2cm
18	金崎 1 号墳		内行花文鏡	6.9cm
19	薬師山古墳		四乳鏡	9.5cm
20	御崎山古墳		珠文鏡	8.2cm
21	社日 2 号墳		珠文鏡	6.4cm
22	岡田山 1 号墳		長宜子孫銘内行花文鏡	10.6cm
23	古天神古墳		変形五獣鏡	13.6cm
24	北小原 3 号墳		珠文鏡	9cm
25	釜代 1 号墳		内行花文鏡	11.4cm
26	奥才14号墳	鹿島町	内行花文鏡	18cm
27			方角文鏡	11cm
28	奥才34号墳		捩文鏡	7.8cm
29	奥才12号墳		珠文鏡	6.7cm
30	小屋谷 3 号墳	八雲村	四子文鏡	9.5cm
31	築山古墳	玉湯町	位至三公銘双竜鏡	8.0cm
32	上野 1 号墳	宍道町	鏡種不明	17.5cm
33	上島古墳	平田市	五鈴鏡	10cm
34	斐伊中山 2 号墳	木次町	細線式鳥獣鏡	12.1cm
35	神代古墳	大東町	小型獣形鏡	7.2cm
36	神原神社古墳	加茂町	景初三年銘陳是作重列式三角縁神獣鏡	23cm
37	土井・砂 1 号墳		破碎鏡（舶載内行花文鏡）	面径不明
38	松本 1 号墳	三刀屋町	斜縁獣帯鏡	13cm
39	三刀屋熊谷 2 号墳		重圈文鏡	4.7cm
40	馬場遺跡		重圈文鏡	面径不明
41	山地古墳	出雲市	二神二獣鏡	12.6cm
42			珠文鏡	8.0cm
43	大念寺古墳		鏡種不明	面径不明
44	明神古墳	仁摩町	鏡種不明	面径不明
45	大峠山古墳群	石見町	櫛歯文鏡	面径不明
46	めんぐろ古墳	浜田市	乳文鏡	面径不明
47	周布川河原		内行花文鏡	7.6cm
48	四塚山古墳群	益田市	三角縁神獣鏡	21.8cm
49	小丸山古墳		珠文鏡	7.3cm
50	鵜ノ鼻50号墳		乳文鏡	面径不明
51	苗代田東方丘陵南	五箇村	乳文鏡	10.5cm
52	丸山 1 号墳		鏡種不明	8.0cm

第6表 県内出土の古墳時代の鏡

- 註1 松井和幸「農耕具」『季刊考古学 第28号』雄山閣出版 1989年
註2 寺沢薫「収穫と貯蔵」『古墳時代の研究 第4巻』雄山閣出版 1991年
註3 古瀬清秀「農耕具」『古墳時代の研究 第8巻』雄山閣出版 1991年
註4 松井和幸「農耕具」『季刊考古学 第28号』雄山閣出版 1989年
都出比呂志『日本農耕社会の成立過程』岩波書店 1989年
註5 今井堯「中・四国地方古墳出土素文・重圈文・珠文鏡」『古代吉備 第13集』 1991年

挿図の出典及び表作成に使用及び参考にした文献

- 『岩屋谷古墳群他発掘調査』伯太町教育委員会 1981年
『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会 1984年
『岩屋口南遺跡』島根県教育委員会 1996年
『勝負遺跡・堂床古墳』島根県教育委員会 1998年
『島田池遺跡・鶏貫遺跡』島根県教育委員会
『奥才古墳群』鹿島町教育委員会 1985年
『島根県埋蔵文化財調査報告書第X集』島根県教育委員会 1983年
『島根県埋蔵文化財調査報告書 第XⅢ集』島根県教育委員会 1987年
『八雲村の遺跡』八雲村教育委員会 1978年
『斐伊中山古墳群－西支群－』木次町教育委員会 1993年
『要害の首塚・地王砦跡発掘調査報告書』三刀屋町教育委員会 1989年
『古代出雲文化展展示図録』島根県教育委員会 1998年
『森遺跡・板屋Ⅰ遺跡・森脇山城跡・阿丹谷辻堂跡』島根県教育委員会 1994年
『沢田宅裏・鎚免大池・渋谷遺跡調査報告』横田町教育委員会 1982年
『下大仙子遺跡発掘調査報告書』横田町教育委員会 1985年
『諸友大師山横穴群』大田市教育委員会 1983年
『中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』島根県教育委員会 1992年
『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』島根県教育委員会 1980年
『兵庫遺跡』西ノ島町教育委員会 1996年
『物井横穴墓群』島前教育委員会 1995年
『御津中の津古墳発掘調査報告書』鹿島町教育委員会 1985年
林原利明「弥生時代終末～古墳時代前期の小型仿製鏡について」『東国史論第5号』1990年
今井堯「中・四国地方古墳出土素文・重圈文・珠文鏡」『古代吉備 第13集』 1991年
藤田孝司「重圈文（仿製）鏡小考」『財団法人君津郡市文化財センター研究紀要Ⅴ』財団法人君津郡市文化財センター 1991年
林原利明「東日本の初期銅鏡」『季刊考古学第43号』雄山閣出版 1993年
高倉洋彰「倭鏡の製作」『季刊考古学第43号』雄山閣出版 1993年
森下章司「仿製鏡の変遷」『季刊考古学第43号』雄山閣出版 1993年
『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書16』長野県教育委員会 1997年
森下章司「古墳時代仿製鏡の変遷とその特質」『史林74-6』京都大学 1991年
『国立歴史民俗博物館研究報告 第56集』国立歴史民俗博物館 1994年
『釜代1号墳外発掘調査報告書Ⅰ』松江市教育委員会 1994年
第5表の作成には当センター角田徳之の指導を得た。